

# 強者の戦略

論述世界史〔京都大学 2020 年前期 第 4 問より〕

今回は京都大学の 300 字論述ではなく、「簡潔に説明せよ」という短文問題をピックアップしてみました。問い自体はシンプルではありますが、語句の説明や因果関係など、知識としてしっかり持っておかないといけないレベルのもので、京都大学の第 2 問や第 4 問では高得点を取るのには当たり前として、その上で 300 字論述で勝負をしていただきたいと思います。また東京大学や大阪大学などでも短い文章の出題がありますので、他の大学の志望者も一緒に取り組んでいただければと思います。

[問題]

A(7)この会議(コンスタンツ公会議)の結果について簡潔に説明せよ。

<時代背景を確認>

1414年からのコンスタンツ公会議は、教会大分裂の解消とペーメンでの宗教紛争を解決するために開かれました。1378年から始まった教会大分裂では、アヴィニョンとローマに教皇がそれぞれ並び立ちました。これは単に教会が割れたというだけでなく、西欧の国々が二手に分かれて対立してしまう事態となります。イギリスやドイツも介入し、3人目の教皇が擁立される事態も起こりました。また当時はオスマン帝国がバルカン半島を脅かしている時期でもあり(1396年にはニコポリスの戦いで大敗北を喫しており)、ヨーロッパはまとまらなければならない時期でもありました。

<問われていることを確認>

ここではコンスタンツ公会議の「結果」が問われています。中世最大の公会議と言われるこの公会議では、600～700人の聖職者が参加したとされています。3人の教皇を廃して新教皇を選出し、教会大分裂の收拾が図られました。また、異端を一掃することも目指されました。ウィクリフの考えに賛同してカトリックの現状を批判していたプラハ大学総長のフスは、異端として焚刑なんけいとなりました。この後、ペーメンで強い支持を受けていたフスの焚刑の影響で、1419年から1436年にかけてフス戦争が起こります。

【解答例】

三人の教皇を廃して新教皇を選んで教会大分裂を終わらせ、フスを異端として焚刑に処した。

[問題]

(8)この制度(エンコミエンダ制)について簡潔に説明せよ。

<時代背景を確認>

大航海時代にスペインやポルトガルは新大陸に進出しました。特にスペインは「征服者(コンキスタドール)」の率いる軍隊を送り込み、アメリカ新大陸にあった王国を滅ぼし支配をしていきます。アステカ王国はコルテスが1521年に、インカ帝国はピサロが1533年に滅ぼします。以後、先住民であるインディオを労働力として酷使していきます。ラス=カサスのように先住民を救済しようとした人もいましたが、酷使やヨーロッパからの伝染病によって先住民の人口は激減することになりました。

<問われていることを確認>

エンコミエンダ制の説明です。「エンコミエンダール」という言葉があるのですが、「委託」という意味があります。スペイン国王が植民した人に、先住民の統治を委託する制度です。そして先住民をキリスト教に改宗させることを条件に労働力として使役することを認めます。しかし先住民は鉱山開発や農業で酷使され、また疫病で人口は激減したため、この制度は16世紀には衰退を始めていきます。17世紀以降はアシエンダ制が広がります。

【解答例】

スペイン国王が植民者に先住民保護とキリスト教化を条件に現地の統治を委託、先住民の使役を認めた制度である。

# 強者の戦略

[問題]

B(12)(イ) それ(「キープ」)はどのようなものであったか、簡潔に説明せよ。

## <時代背景を確認>

アメリカ大陸では、メキシコ湾岸にはオルメカ文明が前1200年ごろまでには成立し、ユカタン半島には前1000年ごろからマヤ文明が存在して二十進法や精密な暦法、マヤ文字など独自の文化を発達させていました。前1世紀ごろにはテオティワカン文明がメキシコ高原に生まれています。大航海時代で西欧人が訪れたときには、アステカ王国やインカ帝国が存在していました。アステカ王国は絵文字などを持っていましたが、インカ帝国は高度な文明を持ちながらも文字を持たず、キープ(結縄)で記録を残し、伝えていました。

## <問われていることを確認>

単純にキープの説明を書けばよいので、まったくひねりはありません。縄の結び目で記録を残したことを説明すればよいかと思います。

### 【解答例】

縄の結び目の位置や結び方、色などで、人口・家畜・穀物などの数量を記録し、伝達した。

[問題]

(15) キリル文字が考案された宗教上の背景を簡潔に説明せよ。

## <時代背景を確認>

キリル文字は、世界史を少しでも勉強している人なら、今のロシア文字の原型であることを知っている人が多いと思います。ロシアの文字は日本人には馴染みはあまりないですが、知らないうちに触れていたりします。たとえば、顔文字「(´Д`)」の「Д」はロシアの文字です(笑)。さて話を戻します。

キリル文字のもとになったのがグラゴル文字です。キュリロス兄弟という9世紀の宣教師が、モラヴィア王から要請をうけてコンスタンティノープルより派遣され、布教を行いました。その際グラゴル文字が考案され、布教に

使用されました。キュリロスは「スラヴ人の使徒」と称されています。そのグラゴル文字がその後発展してキリル文字となり、布教には必要不可欠となりました。その後現在ロシアで使用されている文字の原型となります。

## <問われていることを確認>

キリル文字が使用された「宗教上の背景」ということです。すなわち、ギリシア正教会(東方正教会)のスラヴ人への布教で文字が必要だったことが、すぐに考えられると思います。

### 【解答例】

ギリシア正教会がスラヴ人に布教する上で、スラヴの言葉を表記する文字が必要であった。

[問題]

(16) この関わり(16世紀のドイツにおいて、宗教改革が諸侯だけでなく民衆のあいだにも支持を広げた背景には、こうした技術発展が関わっていた)の内容を簡潔に説明せよ。

## <時代背景を確認>

カトリック教会への批判は14世紀ごろからすでに見られていました。先の問題で述べたウィクリフやフスはその先駆的位置づけとなります。16世紀にドイツで始まったルターの宗教改革は神聖ローマ帝国内部の皇帝と諸侯の政治的対立のみならず、民衆にも影響を与えることとなります。教皇と対立したルターの主張がドイツ各地に伝わると、教皇庁の搾取に反発する諸侯や市民、領主の搾取のもとにあった農民など、社会全体に支持する人たちが現れました。ヴォルムス帝国議会で自らの説を撤回しなかったルターはザクセン選帝侯に保護され『新約聖書』のドイツ語訳を完成させます。これによって民衆が直接キリストの教えに接することができるようになりました。またドイツ農民戦争なども起こります。

## <問われていることを確認>

宗教改革が民衆の間に支持を広げた背景にある「技術発展」ですが、これは15世紀に発明されたグーテンベルクに代表される活版印刷術の改良、実用化が大きな役割を果たしていると言えるでしょう。もともと中世後半は、聖書はラテン語で書かれていましたが民衆は聖書を直接読むでは

# 強者の戦略

いけませんでした(というよりラテン語なので読めなかった)。そうした状態から、一般民衆が聖書を読める言語に訳そうとする人々が現れました。英訳を14世紀におこなったのがウィクリフ、16世紀にドイツ語で訳したのがルターです。ルターはラテン語とギリシア語の原点からドイツ語の方言なども取り入れながら翻訳しました。ちなみにルターのドイツ語訳の聖書は近代ドイツ語の形成に大きな役割を果たしたと言われます。元々聖書は手書きで写していましたが、グーテンベルクの活版印刷術が広がることによって印刷することができるようになると、値段も手書きのときより格段に安くなり、多くの人が目にすることができるようになりました。こうして宗教改革に多大なる影響を与えることとなります。

## 【解答例】

活版印刷術の改良・実用化によって、ルターの著作やルターにドイツ語訳された『新約聖書』が民衆の間に広く普及した。

さて、みなさんの解答はいかがだったでしょうか？短い文章でも、書く内容を一つ一つ丁寧にあげて完成させてみてくださいね。

ではまた次回、お会いしましょう

北林久忠